

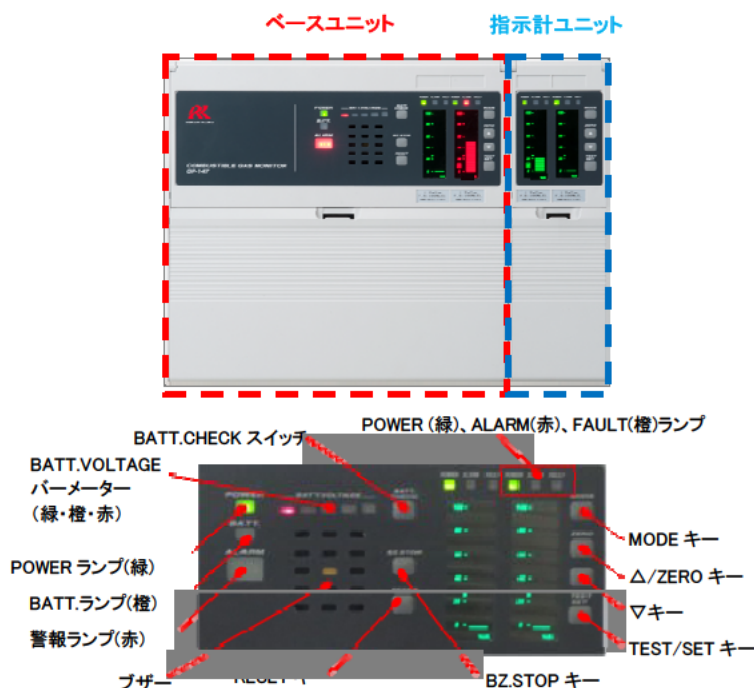
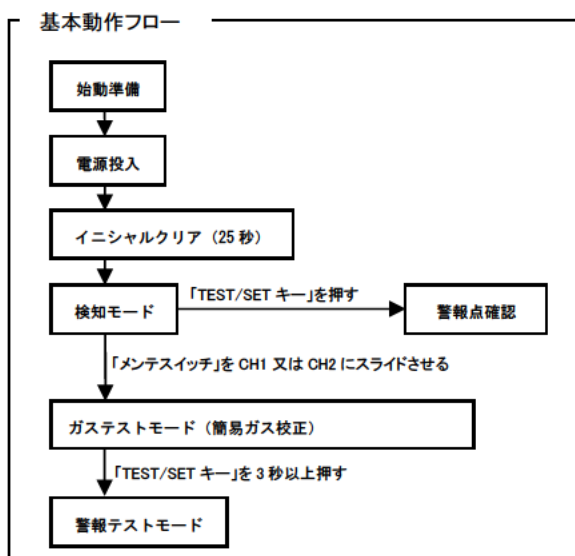
## 日常点検

1. 電源ランプが点灯している事を確認して下さい。
2. 濃度表示がゼロであることを確認して下さい。  
(指示がズれている場合は、検知部の周辺に雑ガスが無い事を確認してゼロ調整を行ってください。)

## 使用方法

### 1. 始動・停止方法

本器が正しく設置されているか確認し、ベースユニット内部の「電源スイッチ」を上倒すと電源 ON、下倒すと電源 OFF になります。電源投入後は本器ランプ及び LCD が全点灯し、イニシャルクリア (約 25 秒) 後、検知モードに移ります。



### 2. 検知モード

LCD 表示部のパーメーターでガス濃度を読み取って下さい。検知モード時の LCD 表示部 及び LED ランプ表示は下記の通りです。

	ベースユニット			指示計ユニット		
	LCD 表示	POWER ランプ	警報ランプ	POWER ランプ	ALARM ランプ	FAULT ランプ
測定状態	ガス濃度表示 (緑)	緑色・点灯	消灯	緑色・点灯	消灯	消灯
ガス警報状態	ガス濃度表示 (赤)	緑色・点灯	赤色・点灯	緑色・点滅	赤色・点滅	消灯
故障状態	エラーコード表示 (例) E-1	緑色・点灯	消灯	緑色・点灯	消灯	橙色・点灯

※上表の表示動作は、標準仕様 (ガス警報：自己保持、故障警報：自動復帰) の場合

### 3. ゼロ・スパン調整

裏面の「簡易ガス校正 (ゼロ・スパン調整)」を参照して下さい。

### 4. 警報の解除の仕方

RESET 操作：「BZ. STOP キー」を押すことで、プザーの鳴動を停止することが出来ます。

「RESET キー」を押すことで、ランプ 及び 接点を解除することが出来ます。

#### <操作例>

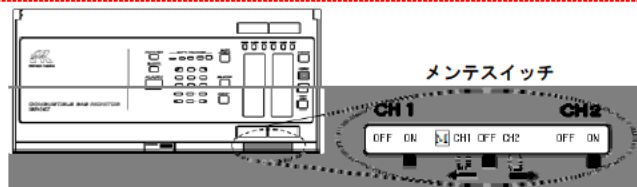
- ・ガス警報状態：RESET 操作後、プザーの鳴動が停止し、ランプ 及び 接点作動はガス濃度が警報点未満になると自動復帰します。(自己保持)
- ・故障警報状態：RESET 操作後、プザーの鳴動が停止し、故障状態から正常に復帰した場合は再起動します。(自動復帰)

## ガステストモード

### ●簡易ガス校正（ゼロ・スパン調整）

検知モードにて、下図のように「メンテスイッチ」を校正するチャンネル側にスライドさせ、ガステストモードに入ります。「メンテスイッチ」を中央に戻すと、検知モードに戻ります。（※ガステストモード中は、LCDに「M」マークが表示され、ガス濃度値がデジタル表示されます。）

**\*ガス校正を行う際は、ゼロ調整用ガス、スパン調整用ガス、排気用ガス袋を準備して行って下さい。接続されている検知器が拡散式の場合は、ポンプが必要となります。**



① ZERO キーを3秒以上押します。

② 失敗 → 成功

③ 自動的にスパン調整モードに移行します。

□ : 消灯 ■ : 点灯 ○ : 点滅  
M : メンテナンスモード中

④ スパンガスを導入し、指示値が安定したところで SET キーを押します。

⑤ 指示値が点滅しますので、▲▼キーでガス濃度を調整します。

⑥ SET キーを押します。

⑦ 失敗 → 成功

⑧ スパン調整終了

最後に「メンテスイッチ」を OFF に戻して、検知モードに戻して下さい。

### ●警報テストについて

ガステストモードの時に「TEST/SET キー」を3秒以上長押しすることで警報テストモードに入れます。警報テストモードでは▲キーで指示を上昇させて、疑似信号（DC 0-6-12V 又は 4-20mA）を発生させ、警報動作（ランプ、ブザー、接点）の確認及び外部への伝送状態を確認することが出来ます。「MODE キー」を3秒以上押すとガステストモードに戻ります。  
（※警報テストモードにて放置した場合、10時間後に自動的に検知モードに戻ります。）

## トラブルシューティング

### <機器の異常>

症状・表示	FAULT	原因	対策
電源が入らない	-	電源スイッチがオフ ヒューズが断線 電源ケーブルの誤接続 電源系統の異常・瞬断	電源スイッチをオンにしてください。 断線の原因を調査し対策後交換して下さい。 端子台を確認し誤配線を修正して下さい。 定格電圧を供給して下さい。無停電電源、電源ラインフィルタ、断絶トランス等の見直し、追加等の措置を講じて下さい。
異常な動作をする	○	ケーブルの異常（断線・未接続・短絡） 突発的なサージノイズ等による影響	本器及び周辺の関連機器を含めた配線の確認をして下さい。 電源を OFF にし、再起動を行って下さい。頻繁にこのような症状が起こる場合は、適切なノイズ対策を実施して下さい。
感度校正ができない	○	校正ガス濃度 センサの感度劣化	適切な校正ガスを用意して下さい。 センサの交換をして下さい。
センサ異常 (E-1)	●	検知部内でのセンサ断線・短絡・ヒーター調整異常	本器-検知部（センサ）間のケーブルを正しく接続する、又はセンサを交換して下さい。インシャルクリア後に「E-1」が表示された場合、再度電源を入れ直すかメンテナンスモード「2-5.0」でヒーター調整を実施して下さい。
システム異常 (E-9)	●	検知部内のメモリーに異常発生	弊社営業部迄ご連絡願います。

### <指示値の異常>

症状	原因	対策
指示値が上がった(下がった) ままた元にもどらない	センサのドリフト 干渉ガスの存在	ゼロ調整を行って下さい。 溶剤等の干渉ガスによる影響は、完全に無くすことは困難です。除去フィルタなど対策については弊社営業部迄ご連絡願います。
	スローリーク	検知対象ガスが微量に漏れている可能性があります(スローリーク)。放置しておく危険な状態になる可能性がありますので、ガス警報時の対応と同等の対応をし、処置を施すようお願いいたします。
	環境の変化	ゼロ調整を行って下さい。
ガス漏れなど、検知ポイントに異常がないのにガス警報を発する	干渉ガスの存在	溶剤等の干渉ガスによる影響は、完全に無くすことは困難です。除去フィルタなど対策については弊社営業部迄ご連絡願います。
	ノイズの影響	電源をOFFにし、再起動を行って下さい。頻繁にこのような症状が起こる場合は、適切なノイズ対策を実施して下さい。
	環境の急変	本器は急激な環境変化(温度など)があると、追従できずに影響を受けて、場合によっては指示警報を出します。環境が頻繁に急変してしまう場合はご使用頂けませんので、お客様にて何らかの対策を講じて頂くようお願いいたします。
応答が遅い	ダストフィルタの詰まり	吸引式検知部若しくは校正ガス供給用ポンプのダストフィルタを交換して下さい。
	吸引側又は排気側チューブの折れ、詰まり	不具合の箇所(吸引式検知部若しくは校正ガス供給用ポンプ)を修復して下さい。
	吸引側チューブ内で結露が発生している	不具合の箇所(吸引式検知部若しくは校正ガス供給用ポンプ)を修復して下さい。
	センサ感度の劣化	新しいセンサに交換して下さい。

1年に1回以上の点検を行うことをお勧めします。

注記：詳細は取扱説明書をご参照願います。